

佐世保市立相浦中学校

所在地 佐世保市川下町277番地

校長名 宮原 龍美

生徒数 470名 学級数 15



教育目標 自らか学び、心豊かで、たくましい生徒の育成

校訓 今日も、明るく、誠実に

1 目的

本校生徒に身につけてほしい事は、次の二点である。第一は校訓「今日も、明るく、誠実に」の実践である。この言葉は、たとえ辛いことがあった次の日であっても、明るく前向きに、笑顔で真面目に真心を持って信頼できる人へ成長してほしいとの願いがある。第二は、学校教育目標「自ら学び、心豊かで、たくましい生徒」中学時代の第一目標は自立である。自分から何かをやろうとすることができることである。その為には親や先生から言われて学習するのではなく自ら学ぶ習慣を作ること。学校では授業以外にも多様な体験活動があり、その活動を通して友との絆を大切に、他者を思いやる豊かな心を育み、逞しい体と精神力を身につけることである。

2 本校のモットー

「 凡事徹底 」 ～偉大なる凡人たれ～



3 本年度のテーマ

- ◎ 豊かな心を育む教育活動の実践
- ◎ 美しい学校づくりの実践
- ◎ 生徒自らが生き方を考え、その力を身につけさせる教育活動の実践

4 実践内容

(1) 豊かな心を育む教育活動の実践

① 本年度のモットーの実践

昨年度の本校のモットーは、「凡事徹底プラス1」とし、「凡事徹底」を実践する中で心をこめて挨拶を実践することを生徒に具体的、明確に示すことにより、保護者・地域からお褒めの言葉をいただくようになった。そこで、今年度は「凡事徹底～偉大なる凡人たれ～」を掲げ、昨年度より、さらに定着することを目指し、全校で取り組んだ。生徒達に社会の常識として「挨拶・返事・時間を守る・整理整頓」を徹底的に指導し身につけさせることが未来を生き抜く子どもたちに必要不可欠であり、今、日本人が世界中の人たちに認められている事が正にここにある事を年間を通じ全職員で指導した。そのことが本校生徒が落ち着いて学校生活を臨み生徒指導上の問題もほとんどない規律ある学校の大きな柱となっている。

②授業改善の実践

本校は平成25年度～26年度の2年間、佐世保市教育委員会の指定を受け授業改善に取り組んだ。本年度は昨年度までの研究の成果を生かし、全職員が共通理解のもと、授業改善と学力向上目指し「ほめ、認め、引き出す」授業展開を実践した。7月には授業インストラクターの鑄木良夫先生にご来校いただき師範授業を行っていただいたことで教職員の授業改善に対する意識の変容が見られた。また、新たな取り組みとして、全校生徒に授業アンケートを実施した。このアンケート結果を各教科担任が確認することにより、個々の生徒の実態を把握した授業の展開を目指した。

本校生徒は真剣に授業に臨む姿勢が身につけてきているので、今後もこれまでの取り組みを定期的に検証し、繰り返し実践して行けば確実に学力も向上するものと確信している。次年度以降も全職員で取り組んでいきたいと考えている。

③日本の伝統文化の継承及び国際理解の推進

本年度の生徒達の意識の変容が窺えた取り組みとして佐世保市が実施している青少年交流事業への参加及び国際理解講座の実施が効果的であった。青少年交流事業では2年生5名が8月にオーストラリアコフスハーバー市のビショップ・ドルイト学園に留学しホームステイをし、本物の英語に触れ、他国を実際に見ることでその良さと日本の良さを感じることができた。12月には逆に5名の留学生を本校に迎えることで全校生徒が交流を深めるとともに、英語の授業で実際に会話することができた。また、留学生には日本の伝統文化である柔道を体育で、和食の食文化を家庭科で、書道を国語科の授業させました。各授業の中で本校の生徒達や先生方が英語を使いながらやり方等を丁寧に教える姿が印象的であった。



2月には国際理解講座を1・2年生で実施し、中国の方や韓国の方から実際に話をすることで普段の授業では学ぶことができない貴重な体験をすることができた。日本を愛し他国を理解する力は未来を生き抜く生徒達には、身につけていかなければならない力であると考えます。次年度以降も積極的に取り組んでいきたい。

(2) 美しい学校づくりの実践

①校内の環境整備

平素より、身近な生活・学習の場に視点を置くことで、美化に対する意識意識の向上をねらいとし、まずは校舎内の環境美化に力をいれることとした。今年度10年目になるこの取組は、花の種類は変化していくものの、専門委員会の活動継続により、地域にも知れ渡るようになった。また、登校時に毎朝、各生徒がゴミ拾いを行うことが本校生徒に良き伝統として寝ずいている。さらに、6月には親子ふれあい清掃を実施し、生徒達の美化意識の高揚させることが美しい学校づくりの一助となっている。



(3) 生徒自らが生き方を考え、その力をを身につけさせる教育活動の実践

①野外宿泊活動

1年生の野外宿泊学習においては、佐世保の豊かな自然を味わうとともに、入学当初の5月に実施することで団体行動を通しての基本的な生活習慣を身につけさせ、リーダーの養成と仲間づくりをねらいとして活動させることもできた。本年度は、学級対抗で集団行動を披露するなど工夫を凝らした取り組みを企画し生徒達の意識の高揚に結ぶつけることができた。また、シーカヤック体験や海の学習会では実際に体験することや、九十九島の自然について専門的な見地やデータをもとに学習することで、郷土の良さを学ぶとともに、自ら、考え、行動する力を身につける良い機会となっている。また、生徒たちからも好評で「シーカヤックは初めての体験で大変楽しかった」など、生徒たちも興味を持って意欲的に活動ができた。さらに、ふるさと佐世保自然の豊かさや素晴らしさを再確認する良い機会として毎年、1年生にとっては有意義な活動となっています。



②キャリア教育の充実

3年生では、6月に相浦・日野地区を中心とした44の事業所で職場体験学習を実施している。職場における体験学習においては、日頃、学校で学ぶことができない貴重な体験を行うことによって、職業観・社会性・自己の生き方など、貴重な体験を通して考えることにより、今後の進路選択に向けて、目標を明確にし、学習意欲を高め

る良い機会となっている。さらに、生徒達が高齢者や幼児など、異年齢の人たちと関わることによって、思いやりの心や感謝の心を育てる場として定着するとに地域の多くの方々に実際に本校生徒の姿を見ていただきその良さを知っていただくことにより、「開かれた学校づくりの推進」にも大きく寄与することができた。



また、2年生においては実際に高等学校の先生方を招聘しての高校説明会を実施しその内容を各高校別に情報機器を活用しまとめ学級で発表することで将来の目標について、深く考える機会を設定いた。今後も3年間の学びを系統的に実践していくことで生き方を考え、その力をを身につけさせる教育活動を推進していく。

5 成果と課題

- ①豊かな心を育む教育活動の実践では、本年度のモットー「凡事徹底」～偉大なる凡人たれ～を全校生徒に浸透させ、学校全体で取り組んできた。また、1月からは全校で学校教育目標等を唱和する朝礼五訓を実施し、有意義な朝のスタートを実践した。その結果、生徒達の自覚も高まり、新たな良き伝統を築きつつある。今後も校長指導の下、規律ある学校づくりを目指していきたい。また、学力向上についても今年度の講師の招聘や授業アンケートを実施することで教職員の意識の変容が窺えたことは成果である。本校の最大の課題で学力向上に向けて今後もチームで授業改善を推進していくことが重要であると考え。さらに、本年度、日本の伝統文化の継承及び国際理解の推進については生徒達へのプラスの効果が如実に表れていた。日本人として身につけるべき力であることは明らかである。今後も積極的に取り組んでいきたいと考える。
- ②美しい学校づくりの実践では、地域からも好評かを得ている玄関前の花壇の整備など良き伝統は継続して取り組んでいくことが大切である。この取組のさらなる充実のためには、生徒会活動を活性化し、生徒自らが積極的な取組しなければならないと考える力を身につけさせそれを実践するように意図的に教職員が指導・支援していくことが大切である。「ほめ、認め、引き出す」ことで個々の生徒の自尊感情を高めることで生徒中心の活動が活性化できるものとする。
- ③生徒自らが生き方を考え、その力をを身につけさせる教育活動の実践では、生徒たちの体験活動を中心とした活動を取り入れることは、将来の生き方を考える上で重要な機会となっている。また、地域の方々が実際に本校生徒の姿を直接見ることで、その良さを理解していただくことで、「開かれた学校づくり」の推進の一助となっている。次年度以降も、様々な体験を通して本校生徒に「未来を生き抜く力を」を身につけさせていくことが学校の重要な責務と考え、次年度以降も綿密な計画をもとに実践していくことが重要である。